

奈良県における農村女性起業の現状と今後

近年、農産加工・直売をはじめとしてさまざまな農村女性グループの活動が盛んに行われるようになり、農村地域社会に大きな影響を与えとともに、地域農業における新しい動きの一翼を担ってきています。

こういった農村女性による起業活動は全国的規模で展開されています。奈良県における実態について、昨年に行った調査から報告します。

女性起業数は年々増加

女性起業数は53件で、うちグループ経営が35件（66％）と大半を占めています。なお、前回（平成13年度）調査時より個人経営が18件と2倍強の増加となっています（図1）。

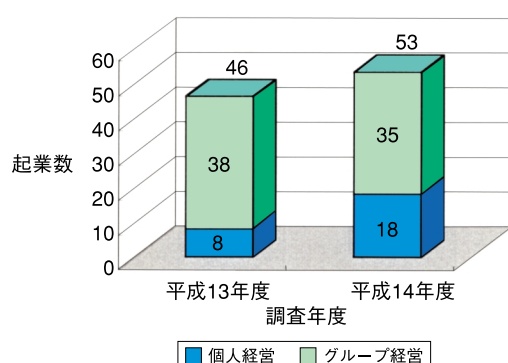


図1 女性起業の動向

地域農産物を利用した食品加工が中心

活動内容を見ると、食品加工が51％、朝市などの流通・販売が23％を占めており、地域農産物を利用した起業が多数を占めています（図2）。（複数回答）

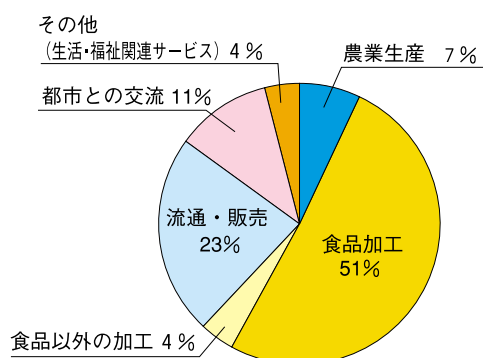


図2 経営体の類型

規模は零細

販売金額で見ると、年間売り上げが300万円未満が63％を占めており、規模は零細です（図3）。なお、1,000万円以上は前回より50％の増加となっています。

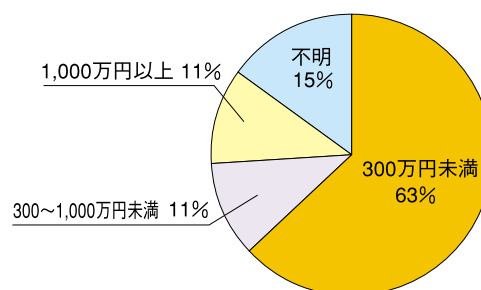


図3 売上金額（過去1年間）

年々、活発になってきている女性起業活動は、農業や農村の活性化をもたらし、農村女性の経済的な自立にもつながってきています。しかし、現状は零細な事業が大半を占めており、既に起業した活動を発展させるには、規模拡大も重要な課題と考えられます。

今後、さらに事業を発展させるためには、マーケティング、流通、税金・財務、法律・法規など、今まで知っている以外の様々な知識や、新たな人脈のネットワークも必要となってきます。

県においては、農業生産を核として、加工・流通等のアグリビジネスに積極的に取り組む女性起業家の育成や経営の高度化を図ることを目的に、今年度より「農村女性支援普及活動事業」に取り組み、各農林振興事務所農林（農業）普及課で推進・支援を図っています。

（技術調整班 角山美穂）

「女性起業」とは、女性の感性や主体性を生かした経済活動、すなわち女性が自分の持っている能力や意思を生かし、働いただけの正当な評価が得られ、また、仕事の結果が帰ってくるという「自分の仕事」を求める活動。（農水省生活技術研修館、H12）